第3種郵便物認可

ギターにのせて般若心経

五泉の永谷寺住職・吉原さん

アコースティックギターの音色に合わせて般若心経を唱える住職が、五泉市にいる。その様子を動画配信したところ評判になり、参拝者に頼まれて寺で披露するようにに。さらに、葬儀や法要で〝演奏〟することもあるそうだ。

アコースティックギターの音色に合わせ、般若心経を唱える永谷寺住職の吉原東玄さん

寺の本尊の前で合掌する吉原東玄さん＝いずれも11日、五泉市川内

境内で「生演奏」人集まる寺へ

「摩訶般若波羅蜜多心経……」。般若心経を唱えはじめると、滑らかな手つきでリズムをとるようにギターの弦をはじき、落ち着いた音を奏でる。読経と演奏は、五泉市村松地区にある永谷寺の住職、吉原東玄さん(42)。「木魚よりもリズミカルで、お経が自然と耳に入ってくる」と手応えを感じている。

ギター伴奏つきの読経を始めたのは、新型コロナ対策の最初の緊急事態宣言が出た頃だった一昨年5月。外出自粛ムードが広まって自宅で過ごす人が急増している中、「お寺の『ありがたいもの』を動画で発信できないか」と大学時代の友人から持ちかけられた。そこで思いつくまま、特技のギターを伴奏に般若心経を唱え、YouTubeに投稿した。

すると、動画を見た人から「実際に聴きたい」という連絡が寺に電話で相次いだほか、近所でも評判に。希望者が参拝に来れば本尊を置いた本堂や境内で「生演奏」を披露するようにもなった。多ければ月10回ほどあり、参拝者も以前より増えたという。

吉原さんにとってギターは、思春期に直面した寂しさを紛らわせてくれた道具だった。高校入学前、小千谷市にある実家の寺から、遠縁にあたる永谷寺へ養子に入ることに。家族と離れた生活を送るようになり、手に取ったのが、父からもらった古いフォークギターだった。好きだったミスターチルドレンの代表曲「イノセントワールド」の楽譜を買い、自室の8畳間で、時に涙を流しながら夢中で練習した。

それから30年近くが経ち、ギターは読経の道具にもなった。般若心経は仏教の重要概念である「空」の教えを説き、葬儀や法要で読むことが多いという。「ありがたいお経で、どんな場面でも適用できる」と吉原さん。読経に合わせて和太鼓をたたく動画も発信している。

村松地区は少子高齢化と過疎化が進んでいるが、めざすのは人が集まる寺。住職として一人でも多くの人の悩みを聞き、解決の助けになりたいと思っている。そのために、「待つだけではだめ。従来のスタイルを変えてでも自分の活動を見てもらいたい」。今日もギターを奏でながら、お経を唱えている。

（小川聡仁）